

**製品名:** フィラミン 1 (リン酸化 Ser2152) ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab04672

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	280kDa

## 抗原情報

遺伝子名	FLNA
別名	FLNA; FLN; FLN1; Filamin-A; FLN-A; Actin-binding protein 280; ABP-280; Alpha-filamin; Endothelial actin-binding protein; Filamin-1; Non-muscle filamin
遺伝子 ID	2316.0
SwissProt ID	P21333
免疫原	抗血清は、Ser2152 のリン酸化部位周辺のヒトフィラミン A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 2121-2170

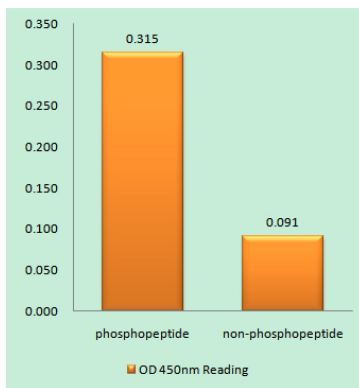
## 背景

アクチンフィラメントの直交分岐を促進し、アクチンフィラメントを膜糖タンパク質に連結する。様々な膜貫通タンパク質をアクチン細胞骨格に固定し、幅広い細胞質シグナル伝達タンパク質の足場として機能する。FLNA との相互作用により、神経芽細胞は脳室帯から皮質板へ遊走する可能性がある。

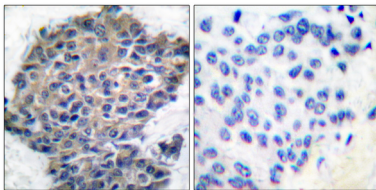
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;焦点接着;

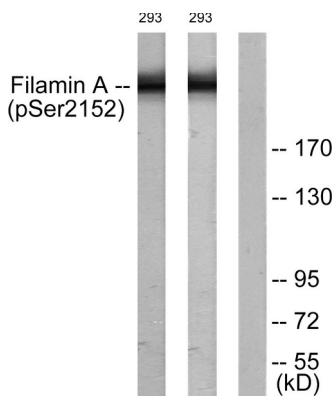
## 画像データ



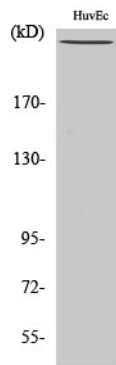
フィラミン A (リン酸化 Ser2152) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



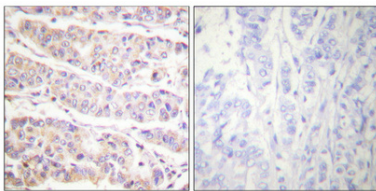
フィラミン A (リン酸化 Ser2152) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 5' で処理した 293 細胞ライセートの、フィラミン A (リン酸化 Ser2152) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化フィラミン 1 (S2152) ポリクローナル抗体 (1: 2000 希釈) を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。